

平成22年度 事務事業評価シート（平成21年度実績分）

事務事業名		上街区街なみ環境整備事業		部課コード	1702	予算事業科目	010805010274	事	単	区分	継続
所管部署	担当部局	都市建設部		部局長名(2次評価者)	海治 甲太郎		個別事務	全部	010805010274	-	
	担当部署	都市計画課		所属長名(1次評価者)	清水 博					-	
	電話番号	088-823-9465		E-mail	ko-170200@city.kochi.lg.jp					-	

1 事業の位置付け

予算科目(平成21年度)		高知市総合計画・実施計画施策体系での位置付け									
会計	01 一般会計	目標	01 A新しい価値を創造発進する都市	政策基本方針	創意工夫と活力に満ちた交流拠点にふさわしい都市空間の創出に向けて、求心力のある都市中心核の形成を図るとともに、良好な市街地の形成に努めます。						
款	08 土木費	政策	01 にぎわいの都市空間整備								
項	05 都市計画費	施策	04 都市美の形成								
目	01 都市計画総務費	区分	01 都市美形成推進								

2 事業の根拠

法律・政令・省令	街なみ環境整備事業	法定受託事務
県条例・規則・要綱等		
市条例・規則・要綱等	高知市上街築屋敷築街なみ環境整備事業費補助金交付要綱	
その他(計画、覚書等)	築屋敷地区計画	

3 事業の目的・内容等

対象	誰(何)を対象に	築屋敷地区の石垣や堤、桜並木や家屋を含めた全体の街なみ			
意図	どのような状態にしていくのか				
手段	事業実施体制等	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設の景観整備 民間施設の修景助成 	事業開始年度	平成19年度	
			事業終了年度	平成28年度	
活動内容	どのような事業活動を行うのか	<ul style="list-style-type: none"> 地区計画を定めて、良好な街なみづくりを誘導する。 地区住民と話し合いを行って、公共施設の整備計画を立てる。 家屋等の改修時に助成を行って良好な街なみづくりを誘導する。 			
成果指標	事業目的の成果を測る指標		指標設定の考え方		
	A	道路景観整備率	景観整備を計画している道路延長に対する、整備済みの道路延長率		
	B				
	C				

4 事業の実績等

			19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(計画)	備考欄
成果指標	A	目標	0	26%	50%	0	
		実績	0	0	0.5		
	B	目標					
		実績					
	C	目標					
		実績					
投入コスト	① 事業費	決算額 (千円)	3,986	2,360	62,570	50	
		財源内訳	国費 (千円)	1,993	1,180	31,285	
			県費 (千円)				
			市債 (千円)		800	10,700	
			その他 (千円)				
			一般財源 (千円)	1,993	380	20,585	50
	翌年度への繰越額 (千円)		28,570				
	② 概算人件費等	人件費等 (千円)	7,500	7,500	7,500	750	
		正規職員 (千円)	7,500	7,500	7,500	750	
		その他 (千円)					
		人役数 (人)	1.00	1.00	1.00	0.10	
		正規職員 (人)	1.00	1.00	1.00	0.10	
		その他 (人)					
総コスト=①+② (千円)		11,486	9,860	70,070	800		
市民1人当たりコスト (円)	34	29	206		総コスト/年度末人口		
年度末住民基本台帳人数 (人)	341,544	340,695	339,714				

5 成果指標で表せない事業成果・市民満足度・その他課題点等

民間が行う家屋や垣・柵の改修については、事業期間内に何戸を改修するというような目標設定が出来ないため、成果として指標に現せない。しかし、改修を行ったところについては、当地区の雰囲気マッチしたものに仕上がっており、景観形成の趣旨に沿ったものとなっており、事業効果が上がっている。

6 1次評価（所属長評価）

評価日（平成 22 年 9 月 24 日）

評価項目		評価基準	1次	平均 点数	評価内容の説明
事業実施の必要性	① 〔施策体系等での位置付け〕 事業の実施が市の総合計画・実施計画・市長マニフェスト等の目標達成に結びつくか、又は、事業の根拠等に結びつくか	A (5) 結びつく B (3) 一部結びつく C (1) あまり結びつかない D (0) 結びつかない	A	3.0	「総合計画2001」の中で「にぎわいの都市空間整備」を掲げており、この中の「都市美の形成」において「個性的で魅力ある都市景観の形成」を図ることとしている。 当該地区では地区計画を定めて住環境を保全することとしており、公共側の道路等の公共施設整備や住民への修景補助とあわせて官民協働による景観整備を進めている。 公共が行う道路の整備は2路線あり、1路線が完了した段階で次の路線の整備についてアンケートを実施したが、整備を望む声が半数程度であり、強いニーズが感じられない。
	② 〔市民ニーズの傾向〕 事業の実施に対する市民のニーズ（需要量）の傾向はどうか	A (5) 非常に多い、急増している B (3) 横ばいである C (1) 少ない、減少している D (0) ほとんどない			
事業内容の有効性	③ 〔成果の達成状況〕 事業の成果指標の達成状況は順調か	A (5) 十分に達成している B (3) 概ね達成している C (1) あまり順調ではない D (0) 十分な成果を望めない	C	2.0	公共が行う2路線の道路整備の内、1路線の桜並木通りは完成した。もうひとつの路線の整備については、当初整備計画を地元を示したが同意が得られず、新たに地元の意見を聞いた上で決定することとして説明会を開催するとともにアンケート調査を行った。
	④ 〔事業の手法・活動内容〕 事業成果の向上のための手法・活動内容の妥当性	A (5) 妥当である B (3) 概ね妥当である C (1) 検討の余地がある D (0) 見直しが必要である			
事業実施の効率性	⑤ 〔アウトソーシングの可能性〕 事業の実施にかかる民間活力利用の可能性	A (5) 実施済・できない B (3) 行政主体が望ましい C (1) 検討の余地はある D (0) 十分可能である	B	3.0	官民協働での取組であるため、地元住民による家屋や垣・柵等の改修については民間主動の取組に官が一部を助成することとしており、民間活力に期待するところが大きい。メインとなる道路整備については、公共主体となる。 官主動で行う道路整備は、景観整備として行うものである。一般の道路整備よりはグレードを上げることになり、コスト的には割高となる。
	⑥ 〔事業統合・連携・コスト削減〕 類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性	A (5) 現状が望ましい・できない B (3) 概ね効率的にできている C (1) 検討の余地がある D (0) 十分可能である			
事業実施の公平性	⑦ 〔受益者の偏り〕 事業の受益者が特定の個人(団体)等に偏りがなく公平性が保たれているか	A (5) 極めて公平性が高い B (3) 概ね保たれている C (1) 偏っている D (0) 公平性を欠いている	B	4.0	特定箇所の公共整備と家屋等への改修助成になるため、直接的には当該住民の受益となるが、当地区は市民に親しまれている桜並木があるとともに坂本龍馬ゆかりの史跡等もあることから観光客も多く、官民合わせて景観整備を行うことにより広く市民へ受益が還元されるものである。 住民への助成については、必要経費の一部であるため妥当な範囲である。
	⑧ 〔受益者負担の適正化〕 事業実施の財源として、受益者負担割合（一般財源負担割合）は妥当か。補助金等交付事業の場合、対象経費は妥当か。	A (5) 適正な負担割合である B (3) 概ね適正な負担割合である C (1) 検討の余地がある D (0) 検討すべきである			
総合点	12.0	総合評価	A 事業継続 (総合点が16点以上で、各項目の平均点数がいずれも2点を超える場合) B 経費削減に努め事業継続 (総合点が12点以上16点未満で、各項目の平均点数がいずれも2点を超える場合) ○ C 事業縮小・再構築の検討 (総合点が4点以上12点未満 又は 各項目の平均点数のいずれかで2点以下がある場合) D 事業廃止・凍結の検討 (総合点が4点未満 又は 各項目の平均点数のいずれかで1点以下がある場合)		

7 2次評価（部局長評価）

評価日（平成 22 年 9 月 29 日）

総合評価	評価理由・今後の方向性等
A 事業継続	官民一体となった取り組みが必要である。地元の意向調査では協力が難しい状況であり、事業の見直しが必要。
B 経費削減に努め事業継続	
○ C 事業縮小・再構築の検討	
D 事業廃止・凍結の検討	

8 特記事項

--